

令和8年度
推薦入試

【人文・文化学群 比較文化学類】

区 分	出 題 意 図 ・ 正 解 例
小論文(1)【日本語】	<p>問1</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>本文の内容を的確に読み取ったうえで、主要な概念を定義するとともに、その概念が持つ課題を考察して規定字数以内でまとめる能力を問う。</p> <p><u>解答例</u></p> <p>「健康」とは、身体的、精神的、社会的に疾病や障害がなく良好な状態であり、当人がもつ可能性を十全に発揮できる状態として定義できる。しかし、「良好な状態」や「可能性を十全に発揮できる状態」は追求されるべき目標としてみなされることが多いが、かなり曖昧でもある。このような規範的だが曖昧な目標を定義することは、肥満や喫煙習慣など「健康」ではない人々への差別や抑圧を構造的に生み出しかねない問題を抱えている。(199字)</p> <p>問2</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>現代社会が個人の「健康」に様々な側面からいかに介入しているかが筆者によって示されている。その問題意識を理解したうえで、個人の自由と公共性のせめぎあいや諸個人の自由の比較衡量について、具体的な事例を提示しつつ、思考する力や批判する力、表現する力があるかどうかを問う。</p> <p><u>解答のめやす</u></p> <p>個人と公共性の問題について、どちらか一方への賛同にとどまらず、具体的な事例をあげながら、事例によっていずれが優先されるかを的確に論理的に説明することが求められる。</p> <p>出典</p> <p>玉手慎太郎『公衆衛生の倫理学—国家は健康にどこまで介入すべきか』、3-6ページ（筑摩書房、2022年）</p>

令和 8 年度
推薦入試

【人文・文化学群 比較文化学類】

区 分	出 題 意 図 ・ 正 解 例
小論文（2）【英語】	<p>問 1</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>“What is also surprising”とは、現在、日常的に話題となっている AI（人工知能）の Intelligence という語が、我々が考えているように中立的な概念ではなく、歴史的に特異な用法で用いられてきたという筆者の説明を理解し、日本語で簡潔に表現する能力を問う。（100 字以内）</p> <p><u>解答例</u></p> <p>最近、話題となっている AI の知能という語は、20 世紀に広く用いられるようになった際には、優生学や家父長制、植民地主義、階級主義、白人至上主義といったイデオロギーと深く関わり使用されていた。（100 文字）</p> <p>問 2</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>AI 開発をめぐる社会的影響への関心が形成される背景についての著者の考えを、日本語で簡潔に表現する能力を問う。（300 字以内）</p> <p><u>解答例</u></p> <p>AI 開発への期待は知能という語が負っている政治的文脈とイデオロギーのもとで形成されている。例えば、植民地主義の時代には支配を正当化するために知能という語が用いられたし、人種差別、帝国主義、家父長制、階級主義を正当化する際にも知能という語が用いられた。優生学との関連で用いられた時、知能は社会的に優れ、繁栄するものとそうでないものとを区別する鍵とされた。このような背景から、AI が及ぼす負の影響についての関心は、例えば、白人中流階級等へ向けられているため、実際の負の影響を受ける貧困層や周辺化された人々を救済するという倫理的・政策的課題から目がそらされてしまっている。（284 字）</p> <p>問 3</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>人工知能の知能（intelligence）という語に関する著者の議論を参考にした上で、自分自身の考えと議論を組み立て、社会問題と技術に対する考えを英語で述べる力を問う。</p>

出典	<p><u>解答のめやす</u></p> <p>筆者の議論を参照しつつ、自身の身の回りを含め、世界の諸問題を技術で解決しようとする例を具体的に挙げ、自身の独自の議論を正確かつ論理的な文章（英語）によって展開する表現力が求められる。筆者の議論をただ繰り返すのではなく、自分で考え、適切な表現を用いて説得力のある議論を展開できているか否かを評価する。</p> <p>Stephen Cave and Kanta Dihal, eds., <i>Imagining AI: How the World Sees Intelligent Machines</i> (Oxford: Oxford University Press, 2023), pp.21-22.</p>
----	--